

令和4年度当初予算 記者発表

石川県

令和4年1月26日

令和4年度当初予算 基本方針

I 「新型コロナウイルス感染症対策」

II 「将来の飛躍・発展に繋げる取り組み」

III 「県民生活の安全・安心のさらなる確保」

新型コロナウイルス感染症対策

- これまでに確立した検査・医療提供体制を引き続き確保
- オミクロン株の感染急拡大を踏まえ体制を拡充

医療提供体制

医療機関	専用病床を最大487床確保
宿泊療養	現在：2棟560床 ⇒ 4月～：2棟630床（+70床） オミクロン株への対応 2月中旬～3月：緊急・臨時的に3棟 約1,000床
自宅療養	オミクロン株への対応 看護師による健康観察を10名体制に拡充し対応（看護協会連携）
メディカルチェック	県下全域でメディカルチェックを実施できる体制を確保（25医療機関） ⇒重症化リスクの早期把握、早期治療により病床負荷を軽減

検査体制

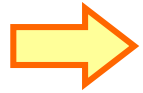
検査	県内全域の約400の医療機関で検査可能
戦略的検査	オミクロン株への対応 病院、高齢者・障害者施設の一斉検査を実施（1/27～）
無料検査	オミクロン株への対応 県内全域の約180の薬局で検査可能（2月末まで延長）

1月27日～2月20日 「まん延防止等重点措置」

時短要請協力金の支給

3回目のワクチン接種について

感染者のワクチンの接種状況：7割の方が2回接種済み



3回目のワクチン接種の促進は喫緊の課題

国：接種の更なる前倒しの方針

市 町

全ての市町で、**2月上旬までに高齢者接種を開始**（一部市町 1/8から既に開始）
➔ **2月中に希望する高齢者への接種を概ね完了できる見込み**

県

市町を側面から支援

県営の接種センターを県庁19階展望ロビーに開設
➔ **遅くとも2月中旬を目途に運用開始**
接種：週末の3日間（金曜・土曜・日曜）

地域経済の正常化

本県の経済状況

- ・ 本県経済は、**製造業を中心に、持ち直している状況** (R3.12 日銀金沢支店)
- ・ 一方、**飲食業や観光産業は厳しい状況**

業況は
二極化

コロナからの再生・成長支援プログラム

二極化の傾向にある中、事業者のニーズに応じたきめ細かな支援

再生パッケージ

厳しい状況の事業者の回復に向けた支援

セーフティーネット

- ・ 事業復活支援金の上乗せ
- ・ 資金繰り支援の継続

需要喚起

- ・ 県民旅行割、GoToイートプレミアムの再開
- ・ GoToいしかわキャンペーン、県民飲食店応援事業の開始

前向きな取組

- ・ 新分野進出、販路開拓支援

成長パッケージ

将来の成長・飛躍に向けた支援

新たな成長分野 への参入促進

- ・ カーボンニュートラル産業育成
- ・ 水素ステーションの整備

収益力の向上

- ・ デジタル化
- ・ 省エネ化の推進

人材の確保

- ・ ものづくり産業の労働力確保

石川県事業復活支援金

- 売上が大きく減少した事業者にとっては、当面の資金確保が何よりも優先
- 国は、売り上げが大幅に減少した事業者を対象に、業種や地域を限定せずに、事業復活支援金を給付

今回の重点措置により、厳しい状況にある事業者の更なる経営悪化が懸念

石川県事業復活支援金

国の事業復活支援金を受けた事業者に対して、**県独自に上乗せ支給**

給付額	売上 ▲50%	法人	50万円
		個人	20万円
	売上 ▲30%	法人	30万円
		個人	12万円

手続きの簡素化
国の決定通知書を活用

厳しい状況にある事業者の事業継続・回復を支援

飲食・観光需要の喚起

疲弊する飲食・観光産業の再生に向け、夏休み前まで切れ目なく需要を喚起



総額760億円の需要喚起 (既計上分270億円+今回490億円)

新たな次世代産業の育成

【本県産業の強み】

炭素繊維複合材料の
プレス成形等の加工技術



本県の炭素繊維複合材料の加工技術は、水素タンクや洋上風車のブレードなどへの活用が期待

【2050年カーボンニュートラルに伴う グリーン成長戦略】

水素、洋上風力、太陽光など14の成長分野

「水素」、「洋上風力」分野を本県における新たな成長分野の柱として育成

「カーボンニュートラル産業育成協議会」の設置、市場参入に向けた調査・検討に着手
⇒ 国の大型プロジェクト採択につなげていくための可能性調査（1億円（国費））

燃料電池自動車による「能登スマート・ドライブ・プロジェクト」の深化

能登スマート・ドライブ・プロジェクトをリニューアル



温室効果ガスを全く排出せずに周遊できる取組みに深化

県内 2 箇所に水素ステーション整備

【能登】

のと里山空港



【金沢】

産業振興ゾーン

◆ CO₂排出ゼロの究極のエコカー・燃料電池自動車で周遊
→トヨタレンタカーにおいて導入
※ 県庁でも公用車として配備



【トヨタ「MIRAI」】

水素ステーション内で水を電気分解し、水素を製造する方式を採用 **全国初**



水素供給装置のイメージ

再生可能エネルギーの活用によりCO₂排出ゼロ！

西部緑地公園の再整備

現状・課題

- ・段階的な整備の結果、施設や駐車場の配置、園内動線が分かりにくい状況
- ・県立野球場、産業展示館については、築後45年以上が経過し、老朽化、狭隘化が進行

再整備の方向性

県立野球場

- 現在の規格に合致する広さに拡大
- 観客収容人数を増加
- グラウンドは、プレー環境に優れた天然芝を採用
- 石川の未来を担う子どもたちに夢と希望を与える野球場
(甲子園球場と同じ天然芝や土を使用)

産業展示館

- 1～3号館を統合・大型化。4号館に近接させ、一体的な運用を図る
- 間仕切により、様々な規模の利用に対応
- 大型コンサートや全国的なコンベンションなど多様な用途にも対応
- 産業振興のみならず、賑わい創出や交流人口拡大拠点としての機能も強化

駐車場・緑地

- 園内に散在する大小の駐車場を各施設から近い位置に集約・効率化
- 大型イベント時、出入りの混雑緩和
- 緑地、多目的広場も集約・大型化し、県民の憩いの場、子供の遊び場、野外イベントの拠点としての機能を充実

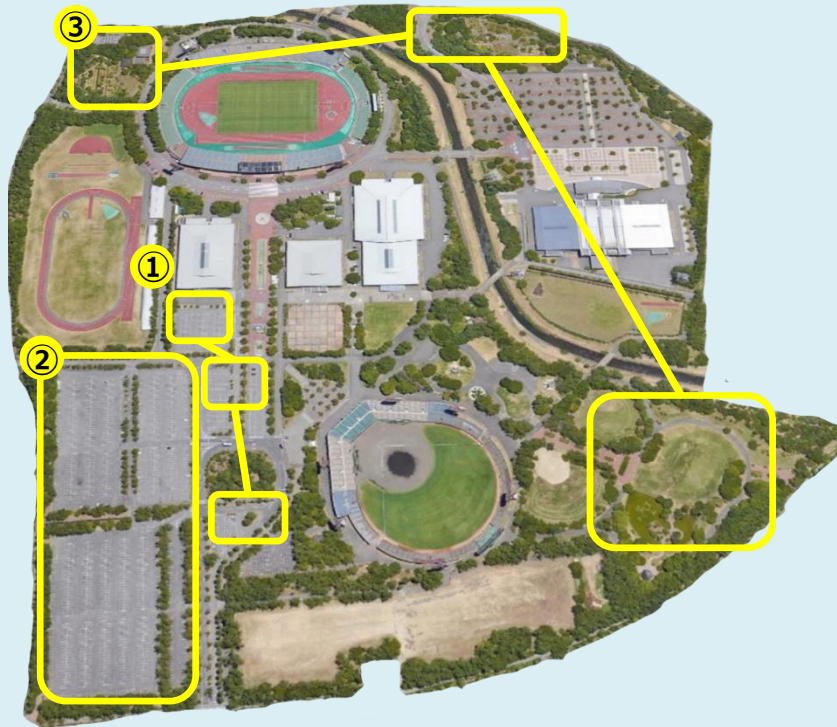
再整備の方向性を踏まえ、基本構想を策定

西部緑地公園の再配置イメージ

※今後、設計等で変更の可能性あり

現 状

- ① 小規模駐車場が、園中心部に散在し、動線複雑化の要因
- ② 大規模駐車場が、各施設から遠くに位置
- ③ 緑地が、敷地の端に分散



再整備イメージ

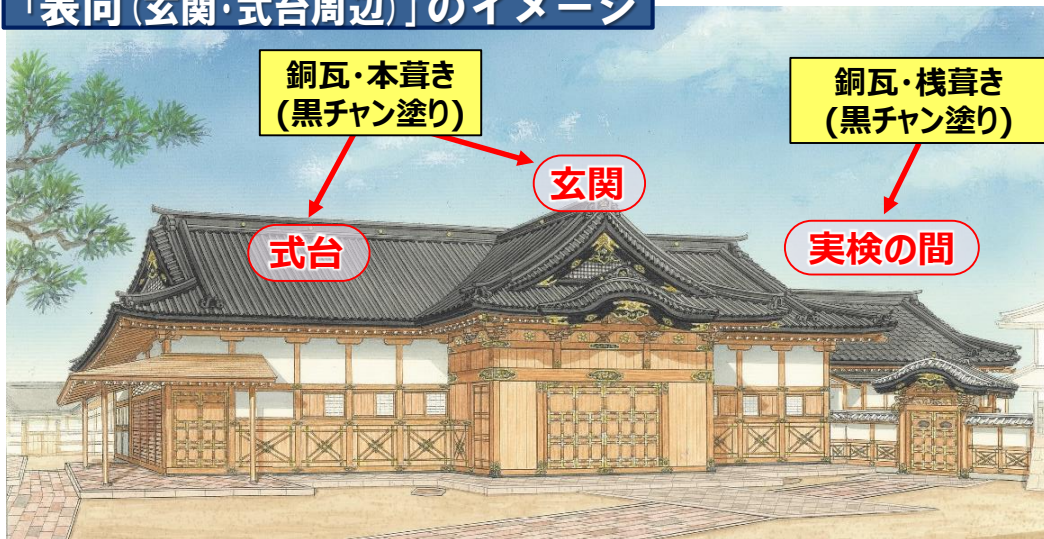
- ① 県立野球場は、大型化し、プレー環境に優れた天然芝を採用
- ② 産業展示館は、1～3号館を統合し大型化
- ③ 駐車場は、各施設から近い位置に集約・効率化
- ④ 緑地・多目的広場は、集約・大型化
- ⑤ 駐車場から動線の複線化



金沢城 二の丸御殿の復元整備

二の丸御殿「表向」主要部を対象範囲とし、**復元整備の取り組みを推進**

「表向（玄関・式台周辺）」のイメージ



R4年度の取り組み

- ・埋蔵文化財調査（第1期完了、第2期着手）
- ・建築設計（基本→実施へ移行）
- ・障壁画等の再現に向けた調査検討
- ・御殿復元に向けた気運醸成

**R6年度の
工事着手を目指す**

御殿復元に向けた気運醸成

- ・二の丸広場一帯を情報発信の拠点
- ・展示コンテンツの充実
(PR映像放映、復元模型で御殿の魅力や特徴を紹介)

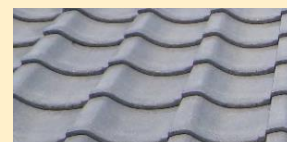
展示コンテンツ例

～屋根の葺き方の違いを模型で表現～

○本葺き 玄関、式台



○棧葺き 実検の間



※表面は黒色の塗装
(黒チャン塗り)



新県立図書館の開館と賑わいの創出①

第二段の建物見学ツアー、こどもエリアの体験会について3月5日(土)、6日(日)に実施

建物見学ツアー (第二弾)

図書館らしい姿となった広大な閲覧空間をお披露目



これから
広大な書架に
本が並ぶ

さまざまな
家具を配置



引越中の
書架



こどもエリア体験会

親子の体験会を実施



【こどもエリアを見学する様子】
(第一弾ツアー時)



【「遊び場」を思わせる大型家具】

新県立図書館の開館と賑わいの創出②

伝統的工芸品の活用

屋内広場に名匠（文化勲章受章者・芸術院会員・人間国宝）の8作品を展示

見学ツアーで
お披露目

